

IR（統合型リゾート）の誘致は 横浜の都市発展をもたらさない

公益財団法人神奈川県地方自治研究センター顧問 上林 得郎

横浜の林文子市長は、8月22日に、カジノを含む統合型リゾート（IR）の山下ふ頭への誘致に乗り出すことを記者会見で発表した。その理由として、①横浜市が今後人口減少に転じ、高齢化がさらに進み生産年齢人口が減少する中で、市財政はますます厳しさを増すことが予想される。②統合型リゾート（IR）を誘致することにより1兆円以上の経済効果が見込まれ、雇用の増加に加えて市税収入も820～1200億円の増収効果が予想される。③懸念されるギャンブル依存症や治安悪化などへの対策については、厳しいカジノ規制や多機関の連携による総合的な取り組みが進められる環境が整ってきた。④これらを総合的に判断して、将来にわたり成長・発展を続けるために横浜にIRを実現する必要があると判断した、としている。

林市長は、IR構想について一時前向きな姿勢を示していたが、2017年の市長選を前に「白紙の状態」と慎重な姿勢に転換していた。2018年7月にIR実施法が成立したのを受けて、8月からIRに参入を検討する事業者から構想の公募を始めるなど情報収集を進めてきた。事業者から出された構想をまとめ、今年6月に市内4カ所でIR検討調査に関する説明会を開いたうえ、白紙から実現に大きく踏み出したものである。

IRとは、カジノ施設と、大規模な国際会議場や展示場、ホテル、レクリエーション施設などが一体となった施設で、民間事業者が設置・運営する「特定複合観光施設」であり、カジノの収益で採算性の低い会議場や展示場の施設の運営をまかなう仕組みとなっている。カジノからの高収益を見込んで、民間事業者が巨額の投資を行い必要なIR施設を建設し、会議場・ホテル・観光・娯楽施設などの運営を行うというもので、巨額なギャンブル収益を得ることにより成り立つものである。

IRは、安倍政権が国の成長戦略の目玉として、国際観光客を増大させるものと位置づけられており、2016年12月にIR推進法が、2017年7月にIR整備法が、いずれも国会で強行採決により可決成立した。IR整備法では、国が基本方針を策定し、都道府県等が民間事業者と整備計画を共同で策定し、国に認定申請を行い、国は3カ所を上限に認定する。国はIR事業者を管理・監督するカジノ管理委員会を置き、事業者の免許、監督を行う、とされている。

そもそもカジノは賭博であり刑法で禁じられているものを、IR整備法で特例的に賭博罪を適用しないこ

ととして、国の監視・管理のもとに置き、カジノ収益を観光と地域経済の振興にあてるとされている。しかし、カジノはゲームではなくギャンブルであり、ギャンブルは賭けを通じてお金が負けた人から勝った人に移るだけで、何ら新たな富を生み出すものでない非生産的経済活動である。客が負ければ負けるほど収益が増大するビジネスであり、「一攫千金」を期待されながらほとんどの客を負けに追い込み、顧客を貧しくさせるビジネスである。

人口減少と高齢化の進行で医療や福祉、都市の再整備に資金が必要になることは理解できるが、その財源をカジノ収益からの税収でまかなうのは筋違いで、自治体が「カジノ依存症」になるのではないかと。税収をカジノ施設の収益から得るとすると、収益に見合った大きなギャンブル規模が必要となり、その分損をする人が出るわけで、結果として地域経済の縮小を招き、都市の発展には結びつかない。

おまけに、ギャンブル依存症などを発症させ、借金による家計破綻、家族崩壊や失業を招き、犯罪の増加など社会的犠牲とコストを地域社会に押しつけるものである。ギャンブル依存症になると、適正な治療等によっても治癒が可能なものではない。アルコール依存症と同様に脳の物質的変化を生み出すことで生じる病気で、行為を抑制する機能が働かなくなり、脳の物質変化によって元に戻らない慢性的な病である。依存症を生むカジノは市民に必要とされていない。

IRの設置予定とされる山下ふ頭は、1953年から埋め立てを開始して、63年に外国貿易のためのふ頭として完成した。高度成長期の横浜港を支える主力ふ頭としての役割を果たしてきたが、70年前後からコンテナ輸送の時代に入り、主要ふ頭の役割が本牧ふ頭などに移り、その補完的役割となった。2000年代に入り都心臨海部の再生・機能強化がもたらされ、山下ふ頭は立地特性を生かした再開発の動きが始まり、2014年に山下ふ頭開発基本計画が策定された。ここでは目指す都市像として「ハーバーリゾートの形成」を掲げ、大規模で魅力的な集客施設の導入などを含めた再開発の実現に向けて動き出していた。

ギャンブル依存症を生み出さないためにも、カジノのないハーバーリゾートに向けた賑わいのある拠点づくりを進めることこそ、横浜にふさわしいまちづくりであり、市民はそれを心から望んでいる。〈次号に続く〉

（かみばやしとくろう）